

令和8年度第1回 静岡市農業振興協議会会議録

- 1 日 時 令和8年8月5日（水） 14時00分～15時45分
- 2 場 所 静岡市役所清水庁舎 7階 7A会議室
- 3 出席者 (委 員)
市川委員、鈴木委員、関本委員、田島委員、
土屋委員、横田委員、吉川委員
(事務局)
稲葉局長、太田農政部長、島津農業政策監、
桐野農業政策課長、杉原農地利用課長、劔持農地整備課長、
岡本中山間地振興課長、山本茶生産再生担当課長、
大石係長、田代係長、高橋係長、増田係長
宮永主任主事、中山主任主事、佐藤主任主事
- 4 欠席者 (委 員)
佐藤委員、三津山委員
- 5 傍聴者 0人
- 6 次 第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 議事
 - ①第2次静岡市農業振興計画の進捗管理について
 - ②第3次静岡市農業振興計画（案）について
 - (4) その他報告事項
 - (5) 閉会
- 7 会議内容
 - (1) 会議成立の報告
委員9名中7名出席により、会議が成立している旨を報告。
 - (2) 第2次静岡市農業振興計画の進捗管理について
事務局から資料を使用して内容について説明。

各委員から以下の発言があった。

(土屋委員)

静岡市で有機農業を広げていくにあたって、小規模農家から大規模農家へ対象を拡大していくなど今後の推進の計画はあるか。

(太田部長、島津農業政策監)

静岡市としては幅広い農家の方に有機農業に取り組んでいただきたいと考えている。

現在葵区、駿河区、清水区の3区で実証栽培に取り組んでいるが、それぞれのほ場で栽培指導者の指導方針が異なる。

無農薬での有機農業や、有機肥料を使用し慣行農業に近い生産量を目指す有機農業など、それぞれが目指す姿に合わせて選択できるようにする。

(横田会長)

有機農業の消費の拡大として、静岡市独自の認証制度について記載があるがどのような認証制度を考えているか教えてほしい。

(太田部長)(宮永主任主事)

静岡県ふじのくにSDGs認証制度が廃止されたため、それに代わる静岡市独自の認証制度を想定している。

(鈴木委員)

有機農業のほ場ではどんな指導をしているか、また、有機農業に対する補助金などがあれば教えてほしい。

(宮永主任主事)

葵区のイオンアグリ創造(株)のほ場では大規模に生産量を確保していく有機農業について。

駿河区のMOA自然農法文化事業団のほ場では自然農法での有機農業で環境負荷低減の効果が高い農業について指導を行っている。

また、有機農業全般に使用できる補助金は現時点ではないが、今後有機野菜全般に使えるJAS認定の取得に関する補助金等考えていきたい。

(桐野課長)

有機農業の3ほ場での取組は、それぞれ令和8年度から令和10年度までの3か年の計画で進めている。

最終的には栽培マニュアルにまとめることで普及につなげていく。

(土屋委員)

茶の生産強化として茶園再生による生産基盤強化の記載があるがどのような取組を行っているか教えていただきたい。

(山本茶生産再生担当課長)

R8年度から農業政策課・農地利用課・農地整備課でプロジェクトチームを発足。現状把握のために耕作放棄茶園について静岡市農地台帳と突合し、現地調査や生産者ヒアリング等を行っている。

先行事例として記載している葵区内牧地区に関してはマルウチ茶専門農協と意見交換を重ね茶園集積を進めている。

(太田部長)

耕作適地でありながら荒廃している農地を茶工場単位で調査し、それぞれの地区で

再生のモデルケースを作っていきたいと考えている。

(土屋委員)

1つの成功事例が出てくるとより地域に広がっていくと考えられるので、期待している。

(稲葉局長)

農地の集約・集積については、地権者の方の理解を得ることが一番の課題であると認識している。

静岡県及び両JAについてもご協力をお願いしたい。

(田島委員)

JAしみずの生産者の平均年齢は約68歳である。

トレーニングファームの取組もあるが農家の減少に対して、新規就農者数が追いついていない状況である。

例えば、リタイアしたスポーツ選手の就農など、様々な視点から新規就農者を増やしていく必要がある。

また、農業者の減少により優良農地の荒廃が進んでしまう。

これを防止するために、農地管理の方法も考えていく必要がある。

(稲葉局長)

現在トレーニングファーム事業は2年目で1名の研修生という状況である。

この取組から新規就農者を増やしていきたいと考えているが、研修生の募集についてどのような方法があるか委員の皆様から案をいただきたい。

(横田会長)

静岡県立農林環境専門職大学の卒業生は農林業関係への就職が8割、うち就農が2割。

雇用就農が多く卒業後すぐの新規参入は技術面や資金面でのハードルが高いのが実際であると考えられる。

卒業後一度就職した就農希望者や、社会人枠で入学した就農希望の生徒等にトレーニングファーム事業をつなげるなど、段階的な就農の一環に農林環境専門職大学を位置づけていただければと考えている。

また、先ほど話に出たスポーツ選手や、自衛隊員等のセカンドキャリアとしてアプローチしていくことも1つの方法であると思う。

(土屋委員)

伊豆では、わさびやしいたけの後継者不足に対して、地域おこし協力隊制度を活用した新規就農者確保に取り組んでいる。

トレーニングファーム事業と地域おこし協力隊を組み合わせ、地域の後継者づくりとともに攻めの姿勢で新規就農者を獲得していくというのも良いのではないかと。

(横田会長)

現在、静岡県の「がんばる新農業人支援事業」のホームページには各市町の募集のある取組について掲載されている。

「がんばる新農業人支援事業」から独立した静岡市のトレーニングファーム事業についても何か誘導する文章を掲載するなど就農希望者への情報提供が幅広くされる

とよいと思う。

(市川委員)

個人の新規就農のハードルは高いため、法人の農業参入なども進むとよいと考えられた。

(3) 第3次静岡市農業振興計画(案)について

事務局から資料を使用して内容について説明。

各委員から以下の発言があった。

(吉川委員)

物価高騰等もあるが消費者目線で安心安全な野菜が確保できれば良いなと思う。

農業の魅力が伝われば農業に対する意欲も変わっていくと思う。

先ほどの新規就農者の募集の話でもあったが、セカンドキャリアでの就農など若い人だけでなくやる気がある方を農業につなげる必要があると思う。

(桐野課長)

JA しみずのみかんのトレーニングファームの研修生は就農経験のない女性。

農業が魅力ある職業であるということを周知するため、トレーニングファーム事業の中で農業研修だけでなく、農業の楽しみややりがい等の情報発信も今後お願いしたいと考えている。

また、前回の協議会で、農業は消費者に買ってもらって成り立つものであるという意見をいただいている。

第3次計画においても消費者の目線を取り入れていく。

(関本委員)

小規模ではあるが、無人販売で農作物を販売するなどをしており、作物をつくることの楽しさを感じている。

新鮮な野菜が安く手に入ることから、他の地区から買いにくる方もいると聞いた。

小さな農家の販売所の整備や支援もあるとよいと思う。

(島津政策監)

ドローンでの農薬散布など大変な仕事をいかに軽労化するかというところに若年層を中心に関心が高まっている。

現在静岡市では農林水産省の取組として茶のスマート農業の検証を行っている。

今後新しい技術の取組を広く共有していきたいと思う。

(田島副会長)

農業が職業として選ばれるためには収入が重要である。

2年前の茶価が低い時に茶生産者へアンケートを行った際には、約8割の方が今後茶生産をやめていくという回答であった。

しかし、茶価が上昇している今年度、再度アンケートを行うと約5割の方は現状維持か経営規模を拡大したいという結果であった。

農業の収益性が高く、安定した生活を送ることができるよう、農業の仕組みづくり

と消費者・流通業者を含めた３者での価格形成が重要である。

また、清水では、地球温暖化による生産コスト増加、生産性の低下に加え、サル等による農作物被害が増えている。

これらによる生産者の生産意欲低下への影響は非常に大きいため、対策を進めていく必要があると考える。

（横田会長）

有機農業の静岡市独自の認証制度に関する指標は第３次計画に設定しなくてよいのか。

（桐野課長）

第３次計画上に指標は定めていないが、有機農業推進計画上で認証制度について位置付けて対応していく。

（鈴木委員）

第３次計画内での地域計画の位置づけはどのようなになっているか。

（太田部長）

地域計画に関しては施策の方向「優良農地の確保と利用促進」内に包括されている。

（桐野課長）

地域計画の第３次計画への掲載については今後調整していく。

（土屋委員）

地域計画に関しては施策の方向「優良農地の確保と利用促進」内の①意欲ある担い手への農地集積・集約の促進の取組の１つとして入ってくるのではないかと感じた。

また、稼ぐことができる農業の実現が目指すべき将来像であるため農業者目線であるのは承知したが、田島委員の意見の中でもあったが消費者理解の促進や農地を荒廃から守るために重要な役割をもつ小規模な農業者の視点など地域全体としての観点を具体的な施策の中に散りばめて入れていければよいと考えられた。

（横田会長）

概ね方向性に関しては問題ないと委員の皆様お認めいただいたということでよいのか。

（委員）

承認。

令和８年度 第２回協議会を１２月に開催する旨を報告して１５時４５分に閉会した。